

発行 城南区人権啓発連絡会議
事務局 城南区役所生涯学習推進課
TEL 833-4044

第22回 人権を考えるつどい

できない事を嘆くより、 できることを考えよう

シンガーソングライター うくみさん



ピアノの音に合わせて楽しそうに歌う「うくみさん」

このコンサートは七月十日に予定していましたが、台風の接近予報により、順延していたものです。当日は快晴に恵まれ、会場は三百五十人も多くの参加者でにぎわいました。うくみさんは北海道函館市のご出身で、函館から津軽海峡を越えデビューしたことから、芸名を「うくみ」と名

付けたとか。幼少のころから、歌手を夢見ていたうくみさん。子どものころに自身もつ「絶対音感」のために、一度聞いた曲をすぐにピアノで弾くことができました。最初は驚愕の声で周りの子からうらやましがられたものの、「気持ち悪い」や「怖い」と、次第に気味悪がられました。そのため周囲に溶け込めず、「人と違うのはいけないことだ」と思い、音楽を断念しバスケットボールの世界に入りました。ところが、大学に入学して三か月後、練習中の事故で脊椎を損傷し、全身に障がいがある身となります。生きる希望を失いかけたとき、友人から軽音楽部に誘われます。そこで決して上手とは言えないギターを弾く男性に出会い、あまりに一生懸命な奮闘ぶりを見て、本当に久しぶりに笑い、救われたそうです。演奏は上手くなくても、そこからあふれ出る力が伝わり、自分を救ってくれたと話してくれました。

参加者の声

- 障がいがあっても前向きに進んでいることに感動。できなくなった事を思いわずらわず、諦めない心で生きていく姿は素晴らしい。
- 好きなゲームの歌を歌っている人というところで興味を持ち、初めて参加。社会人になって初めて人権について考えた。
- 立ち止ってもいい、うずくまってもいい、ただ、諦めないでと友人に伝えます。
- 力は誰でもあると信じられるようになり、人の可能性の素晴らしさを信じて接することの大切さがわかりました。

それからは、できないことを嘆くより、今、自分ができることを考えるようになったそうです。そして再び音楽の世界に戻り、寝る間も惜しんで音楽漬けの生活に。するとそれまで動かなかった指先も動くようになり、心身ともに回復していききました。絶望に沈んだ自身を救ってくれた「歌」とともにシンガーソングライターとして、「命の大切さ・命は繋がっている」ことを伝えながら全国を駆け回っています。

当日は、そうした自身の生い立ちや映画「千と千尋の神隠し」の中の挿入歌の話、大震災の被害にあった南相馬市でのコンサートでの話などを織り交ぜながら、素敵な歌とおしゃべりで時間は進みました。最後は名曲テネシーワルツを皆で歌い、大変盛り上がりしました。「今は言える。人と違うのは大事なことであり、あたりまえのこと。みんな違ってみんないい」と。人の多様性を認め合うことの大切さを話され、コンサートは終わりました。※絶対音感とは、耳で聞いただけで、それがどの高さの音であるかを聞き分ける能力。

平成26年度 城南区人権啓発連絡会議の活動

総会・委員研修会

城南区人権啓発連絡会議の総会が平成二十六年六月二十三日(月)城南市民センターで開催されました。新たに別府校区人権尊重推進協議会発足以伴う規約の一部改正及び役員選出、平成二十五年度の事業報告、二十六年年度の事業計画を審議し、それぞれ承認されました。

総会終了後、こども総合相談センターこども支援課の瀬里徳子課長を講師に招き、「子どもの虐待と地域における支援を考える」と題し、委員研修会を行いました。福岡市では、平成二十二年に

約六百件の虐待通告があり、その後は五百三十件ほどで推移しているとのこと。また、虐待は身体的虐待やネグレクトなど、四つの分類があり、虐待者は実父母で約九割を占めているとのこと。その背景に育児の密室化、孤立化があり、家族や地域関係の希薄化から、育児負担としてつぎの境目に悩む親や、親になりきれない親であることが説明されました。

十一月二十五日(火)に、城南区役所・地下鉄別府駅周辺やサニー七隈店及びマルキョウ東油山店の駐車場周辺の三会場に分かれて街頭啓発活動を行いました。城南区人権啓発連絡会議の委員など三十七名が、買い物客や通行人に十二月十日の人権尊重週間の周知や「人権を尊重する市民の集い(城南市民センター)」への参加を呼びかけました。

街頭啓発活動

- ◆ 6/23 (月) 総会
 - ・規約の一部改正
 - ・役員選出
 - ・平成25年度事業報告
 - ・平成26年度事業計画
 - ◆ 委員研修
 - ・「子どもの虐待～地域における支援を考える～」こども総合相談センター こども支援課長 瀬里 徳子
- ◆ 9/10 (水) 城南区人権を考えるつどい
 - ・人権コンサート
 - ～あなたにあえて良かった～
 - シンガーソングライター うくみさん
- ◆ 9/26 (金) 第1回運営委員会
 - ・人権尊重週間(街頭啓発)の取組
 - ・「城南区人権を考えるつどい」の開催報告
- ◆ 11/25 (火) 人権尊重週間街頭啓発
 - ・福岡市人権尊重週間行事周知及び市民の集いPR(チラシ等配布)
- ◆ 12/10 (水) 人権を尊重する市民の集い
 - ・実践報告「城南小学校における人権教育の取組」
 - 福岡市立城南小学校
 - 講演「新ちゃんのお笑い人権高座～笑顔で暮らす、願いに生きる～」
 - 落語家 露の新治さん
- ◆ 2/2 (月) 第2回運営委員会
 - ・平成27年度総会に付議する事項
 - ・広報紙「こころ」の発行
- ◆ 3/15 (日) 広報紙発行
 - ・城南区人権啓発連絡会議だより「こころ」第25号発行(区内全戸配布)

片江校区人権尊重推進協議会 発足20周年を記念し人権劇披露



片江校区人権尊重推進協議会では、発足から二十年を迎えました。平成二十七年一月二十四日(土)、片江公民館でサークル会員など約八十人が参加し、「二十周年記念事業「人権劇と人権学習会」が開かれました。

テーマは公民館カフェ「よりどころ」。これは昨年十一月から公民館ロビーを利用し、毎月第二日曜日の午後実施しています。「気軽に立ち寄れるような寄りどころ」と「心の拠りどころ」を目指し、こ

ヒーを無料提供しています。人権劇は「よりどころ」を舞台に、そこに集う人々とマスターによるオムニバスで、高齢者を取り巻く事柄が演じられました。続く人権学習会では、五つのグループに分かれ、認知症や孤独死など、高齢者問題について熱く意見が交わされました。

同協議会の山本哲三会長は、「住んでよかったと思える町を実現するため、有意義な楽しい活動をしていきたい」と思いを語られました。

第43回人権を尊重する市民の集い

第四十三回福岡市人権尊重週間「人権を尊重する市民の集い」が、平成二十六年十二月十日(水)城南市民センターで四百二十五名の参加者を得て開催されました。開会行事の後、城南小学校の実践報告と、「新ちゃんのお笑い人権高座」と題して、全国的に活躍されている落語家の露の新治さんによる講演が行われました。

落語家 露の新治さん

おはやしとともに…
笑ふ門には福来たる

新治でございます。笑ふ門には福

来たる。笑顔は人権のシンボルで笑えばおなかもすき、血の循環が良くなりストレスもとれる。血糖値が下がってシワもとれます。笑うとシワが増えるというのは間違いで、むしろ顔の筋肉がほぐれお肌がいいとのこと。すなわちニコニコ笑顔で暮らせるというのは、心身にトラブルが無い証拠。病気や災害、また爆弾が落ちてくるような所では笑っていない

れません。命と暮しが守られている事やと思います。いつまでも笑いの絶えない家庭、ご近所、世の中であってほしいもの。まず身の回りから笑顔のおふるまいをお始めください。

【命】を大事にするには、明らかに笑うのが良い。笑うと目じりのしわも取れ、怒ったときの方が増える。「一笑一少・一怒一増」「笑」という字は笑っている。笑うという事は、そのための平和であり、そのための人権、そのための健康という



露の新治さんが提唱する「笑」



ことでございます。

自分の中に「自惚」を…
自分の人生は自分が主役

する差別とされる差別はどうか分けるか。人からされる差別は被差別といい、自分が自分にする差別、自分をおとしめることは劣等感、コンプレックスといえます。

じゃあ人にする差別を何というのか。私は「加差別」と言っています。被差別をなくすためには、加差別をやめなければならぬ。人に対して不当な分け隔てをしているかどうかを省みてください。「自分はこうやけど、あの人はもっと悪い」と、下見で暮らすの性根で生きていませんか。これは真ん中をくりぬかれて芯がない

笛詰のパイナップルと一緒にです。自分に芯がないので、他人と見比べて「あいつよりはましだ」と優越感を持つ。自分からしたいことを見つけて、どう生きたいかをはっきりさせな

かんです。自分の中に芯を、「自惚」を持ちましょう。自分の人生は自分が主役。隣の人の人生はその人が主役と、認め合うのが基本的人権の確立です。人生の主役は自分だと胸を張っていけば、優越感にしがみつきます。それを手放せる人間になつた時、世の中からあなたの分だけ加差別が減るんです。差別をなくすというのには、他の誰でもないあなた自身が抱いている加差別心をなくすことです。

全ての人間が自分を大事にして、堂々と生きていける。

自分のルーツを三十三代さかのばれば八十五億の人とつながる。そんな事を考えると、血筋がどうか、先祖がどうかというのには取るに足らないこと。人間の値打ちは中味。中味が判断できたら部落差別など、不当な分け隔てはなくなるのではないのでしょうか？

は、間違った分け隔てで、本来やらんもん」ということ。でもいろんなところにまだまだ山とあり、それらを少しでも減らしていけば、風通しが良くなる。それを伝えていきます。学んで、みんな強くなれば素敵なことですよ。人権って「その人がどうなのか」が問われるんです。私は、差別をなくす側に立っていたい。少なくとも今日ここにご参集してください。皆様方と共に…。

参加者の声

- 子ども達に「差別はいけない」と教えている我々大人が一番差別をしているのだと考えさせられた。
- 皆が人権に対する意識をもっと認識し、人と人との絆を強く持つ事が必要ではないでしょうか。
- 一人一人が差別解消に取り組む。私が差別しない、自から、私から。
- 人権も介護見守りも、近所付き合いの大切さが今更ながら感じられた。

実践報告 福岡スタンダード「あいさつ・掃除 自学 立志」を受けた城南小学校における人権教育の取組

新しいふくおか教育計画を踏まえた福岡市の教育施策～福岡のすべての子どもが身につけてほしい大事なこと～

報告者 城南小学校 井上 真宏先生



城南小学校は、現在七百五十八名の児童が在籍し、城南中学校、城南高校が隣接した創立四十四年目の学校です。

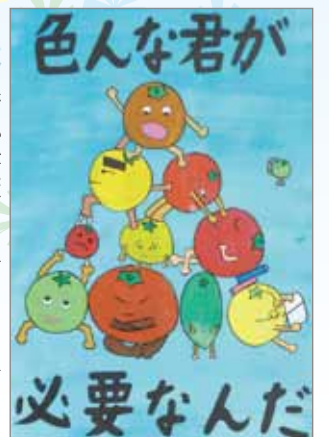
今回、人権教育の取組について、井上真宏先生から報告していただきました。まず、人権教育に大きく関わる「豊かな心をはぐくむ教育」の紹介がありました。みんなが幸せになるために、①城南スタンダードの定着(あいさつ・ふわふわ言葉) ②いじめ〇、不登校〇に向けた取組の推進 ③自尊感情の育成 この三つを重点項目として、人としての生き方はどうあるべきかを日々の学校生活、授業実践で取り組んだとの説明がありました。

さらに、日々のあいさつや生活面、授業の様子、学習発表会での六年生による音楽劇「平和の鐘」が公開されました。すべての授業で、先生たちの豊かな表情により子どもたちの主体性を引き出そうと支援している様子がかがえ、深い教育愛が伝わってきました。まさに「教師のがんばりで、子どもが変わる」、「学校が生きた組織として動いている」と感じられました。「先生」と呼ばれ振り返ると、そこにある子どもの笑顔、目の前の子どもの姿に深く学び、子どもたちの生活が高まるよう教師自身が高まるうとする進取の気風に、今後の人権教育文化の底力が期待される報告でした。

平成26年度 福岡市人権尊重週間入選作品

城南区内のみなさんの標語とポスターの入選作品を紹介します。

- すかんとか 言うなよ みんな仲間やろ 鳥飼小学校・5年 小川 丈瑠さん
- なりたいな あの子とあの子の かけ橋に 別府小学校・6年 宮原 凜さん
- あいさつは 人とのつながり 第一歩 片江小学校・5年 田中 光さん
- 思いやり 友達とすれば 平和の一つ 片江小学校・5年 兒島 邑奈さん
- 友だちの 支えがあるから ここにいる 片江小学校・5年 栗元 悠希さん
- 流した涙が笑顔の花を咲かせることを願って、私は勇気の種をまく。 城南中学校・2年 松尾 渚紗さん



城南中学校・2年 佐藤 哲也さん

別府小学校・5年 冷川 静流さん

別府小学校・5年 山田 萌さん



【編集後記】
今年の干支は羊です。羊は群れをなして行動するところから、「家族の安泰」を表すとされておられ、いつまでも「平和」に暮らすことを意味しているそうです。
「城南区人権啓発連絡会議だより」は年一回発行ですが、人権について考えるきっかけとなり、一人でも多くの人に人権尊重の輪が広がって、幸せな家族が増えることを願っています。